

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月24日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100805		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	勝田ケアセンターそよ風	ユニット名	いわれんげ
所在地	〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根2444-1		
自己評価作成日	平成25年3月6日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872100805-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872100805-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年4月22日	評価確定日	平成25年7月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域住民の方々との交流やボランティア団体の受け入れを多くしている。  
近隣の団地のお祭りや地域コミュニティーセンターでの催し物に参加させていただいている。  
施設内での取り組みとして個別・団体の機能訓練メニューを作成して入居者様に取り組んで  
いただいている。  
福祉車両を5台所有しているため、施設外への外出行事も毎月企画して市内や市外への  
ドライブや外食を楽しんでいただいている。  
また、毎週訪問看護師に来ていただき入居者様全員の健康管理に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自治会に加入し、回覧板で地域の夏祭りや敬老会、資源ごみ回収などの情報を得て参加しているほか、併設の通所介護事業所と連携を図りながら、地域の住民を招いて施設見学会や認知症相談会を開催し、地域の人々との交流に努めている。  
毎月事業所便りを発行して家族等へ送付し、利用者の日常の様子や体調などを報告して家族等から意見や要望が出易くなるよう努めている。  
毎月フードセラピーと称して、利用者と職員が一緒にうどんやクレープ作りなどを実施しているほか、毎年近隣住民の好意で分けて貰うさつまいもを利用し、乾燥いも作りをしている。  
昨年全職員で話し合い、「心の通い合うサービスを提供します」などの具体的な内容を盛り込んだ理念を作成しており、管理者や職員は生活の場面毎に利用者の意思確認を行うなど、理念に基づいた支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、全職員の目が届く事務所に掲示している。また毎日理念の内容を唱和する事で日々の業務に活かしている。	「地域に根ざした施設づくりに貢献します」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で話し合っって作成している。 理念を事務所に掲示するとともに、職員は朝礼時に唱和して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在地域の自治会に加入し、回覧板を通して地域イベントや廃品回収の日程などを確認している。天候や体調を考慮しながら入所者の方々にも参加していただいている。	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしているほか、自治会に加入して回覧板で得た情報を基に、地域の夏祭りや敬老会などの行事、資源ごみの回収に参加するなど、地域の一員として日常的に交流している。 音楽演奏や寸劇、傾聴のボランティアが来訪している。 毎年小学生や中学生の職場体験学習を受け入れているほか、利用者は近隣の小学校の運動会に招かれて観戦している。 併設の通所介護事業所と連携を図りながら、地域の住民を招いて事業所見学会や認知症相談会を開催して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方々に対して認知症に関する資料をお渡しして説明している。また地域包括支援センターと連携し、相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の頻度で運営推進会議を開催し、自治会長・民生員・地域包括支援センター・御家族の方々に参加していただいている。その際、意見・要望を聞くことでサービスの改善や向上を図っている。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事などを報告しているほか、外部評価で明らかになった課題について意見交換や話し合いを行っている。 委員からインフルエンザやノロウイルスへの対応策について質問が出たり、事業所からは救急車による医療機関への搬送は時間がかかることから、緊急を要する場合に対応できるシステムの構築について意見を投げかけて話し合っている。 事業所は車を使用して利用者が公園に花菖蒲を見に行けるよう支援しているが、公園までの道路の状態が悪いことを運営推進会議で相談したところ、委員による市への働きかけが行われ、その結果道路が整備されたり、公園にスロープが設置されるなど、改善が図られている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者に毎月入居状況を報告している。相談等がある場合には担当者に連絡して協力関係を築いている。	管理者は市担当者に毎月事業所の状況を報告するとともに、事業所のサービスの取組みや実情を伝えながら協力関係を築くように努めている。事業所は年2回開催される市主催の地域密着型サービス事業所の連絡会に参加し、市担当者と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、全体会議の中で随時勉強会を開催している。部署内での会議でも話し合い、身体拘束の廃止に取り組んでいる。	重要事項説明書に身体拘束をしないケアの実践について明記している。身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、身体拘束廃止委員会を設置して毎月1回の全体会議の中で内部研修を実施している。全職員が身体拘束の弊害を正しく理解するとともに、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に努めている。やむを得ず身体拘束をする場合に備え、家族等への説明書や同意書、経過観察記録、検討記録などの書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、全体会議の中で随時勉強会を開催している。また県主催の研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の中で定期的な成年後見制度・権利擁護についての話し合いを実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書・重要事項説明書を基に説明している。解約の際には清算書を基に説明している。また改定等の際には事前に御家族へ説明し、理解を得てから同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時には入居者とゆっくり話ができる環境作りを図っている。また意見箱を設置して苦情・相談を受けている。さらに意見箱は鍵で管理し、情報の漏洩にも努めている。	意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは電話や面会時のほか、運営推進会議や年2回の家族会で話し易い雰囲気づくりに配慮しながら意見や要望を聴いている。 利用者の趣味を活かせる支援や外出、食事についての意見や要望を受け、運営に反映させている。 毎月家族等へ事業所だよりを送付する際に、利用者の日常の様子や体調などを報告し、意見や要望が出易くなるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議と2回の部署内会議の中で職員の意見を取り入れている。毎日の業務の中での気付きを申し送りしてサービスの向上を図っている。	管理者は月1回開催する併設の通所介護事業所と合同の全体会議や月2回開催する事業所の会議で職員が意見や要望、提案を出せる機会を設けている。 職員は毎日の業務の中での提案や気付きを全職員で書き込む提案ノートに記入して管理者に提出するとともに、会議の議題として取り上げて話し合っている。 職員の意見を受け、利用者の体調の変化による診療のあり方について話し合ったり、業務の終了時間や休憩時間など、時間のけじめを付けるよう改善を図ったり、レクリエーションの種類を多く取り入れたり、外出や行事の計画を立てる場合は利用者の意見を取り入れたり、外食は利用者の好みによりグループ分けして行うなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内外の研修に参加し、知識の向上を図っている。定期的にキャンペーン期間を設け、達成した場合には報奨金を支給などインセンティブ制もある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては基本業務などの勉強会を実施している。中堅・ベテラン職員には知識や経験に応じた研修を受講してもらい、研修内容が他職員にも理解できるよう勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内の同法人事業所職員と毎月一回の会議を実施し、サービスの向上を図っている。また行政主催の地域密着型サービス事業所向けの説明会に参加し、同業者との意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回利用前に必ず実調を行い、アセスメントをしている。その際は職員2名で対応し、より多くの情報収集に取り組んでいる。また日頃からコミュニケーションを図り、さまざまな訴えや希望を聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時には御家族からの意見や要望を聞いている。面会時には職員と話し合う時間を設け、入居者様が安心して生活が送れるよう信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回ケアプラン作成時には入居者様・御家族のニーズの中で優先順位をつけ、それぞれに対して長期・短気目標を設定している。サービス内容にも必要に応じて他サービス利用を記載している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に外出や行事の際は職員と入居者様で企画・実行している。洗濯たたみや食器洗いなどもお手伝いしていただき、自宅にいた時と変わらない生活の支援を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回、家族会を実施している。家族会では御家族と一緒に入居者様に共同作業をしていただき、作品づくりなどを企画・実行している。また毎日の様子を報告書として御家族に送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などがいつでも面会に来れるよう御家族に声掛けしている。面会に来られた際にはゆっくりと話が出来る環境づくりに励んでいる。	利用者の親戚や知人が訪れており、来訪時にはお茶の接待をして、ゆっくり話ができる環境づくりに努めている。 職員は利用者が家族等に電話をかけたり、利用者にかかってくる電話の取り次ぎを支援しているほか、日常的な手紙のやり取りで読み難いところを利用者の要望により音読したり、誕生日や母の日などの贈り物へのお礼を電話や手紙で行う際に、利用者のできないことを支援するなど、馴染みの人とのつながりを継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通じて入居者様同士の交流を図っている。仲の良い入居者様は同席にし、楽しい交流ができるよう働きかけ・声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居された場合には定期的にお見舞いに行っている。他施設への転居の際には転居終了まで相談・支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人や御家族より希望を聞き、全職員が把握できるよう努めている。困難な方へは、より良いケアが提供できるよう会議の際に意見を出し合い、それを日々の生活に反映できるよう対応している。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、申し送りノートに記録して共有しながら利用者の思いにそった支援に努めている。思いを表わせない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、個別に落ち着いた気分で話せるような場面をつくり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時の情報や、ご本人・ご家族より話を聞き、これまでの生活歴に近づけるような暮らし方が出来るよう努めている。また馴染みの生活に少しでも近づけるよう、家具や備品を居室内に持ち込んでいただくなどして対応している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態や生活状況を全職員が共有できるよう、申し送りノートの活用、口頭での申し送りを実施している。少しでも変化が見られた際はその都度申し送りをして、対応の統一を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの意見・要望をもとに、より良く暮らせるよう介護計画を作成している。定期的に本人の状況や家族の意見を基にモニタリング・ケアカンファレンスを実施している。	介護計画は利用者や家族等の意向や利用者の生活面での課題を把握するとともに、計画作成担当者を中心に職員の意見を取り入れながら短期目標は3ヶ月から6ヶ月、長期目標は6ヶ月から1年で作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。1ヶ月から2ヶ月毎にモニタリングを行うとともに、モニタリング実践記録票を基に、6ヶ月毎に評価を行っている。利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や表情、身体状況を個人記録に記入している。ケアの実践については申し送りの際に報告し、職員間での情報の共有を図っている。また介護計画を基に実践できているかモニタリングにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスのイベント行事などに参加できるよう連携を図っている。地域住民や地域の行事へ参加しコミュニケーションをとっている。利用者の買い物やドライブなども行い、希望によっては個別対応も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や消防訓練、学生の職場体験を受け入れている。近隣の小学校のイベントのお知らせを頂き、随時参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明を行い、承諾を得ている。病状によっては紹介状をいただき他医療機関への受診も行っている。入居前から通院している病院がある場合は、職員が受診同行を行い、安心して病院受診ができるよう対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。 受診は基本的には職員が付き添い、家族等へは電話や面会時等に結果を報告している。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療がある。 毎週木曜日に訪問看護師が来訪するとともに、急な体調の変化や事故などが起きた場合は、昼夜を問わず連携が図れる体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな体調の変化に気づけるよう日々見守りを徹底し、異変を感じたときはすぐに看護職員に相談するようにしている。また急な体調の変化や事故等などが起きた場合は、昼夜を問わず看護師に連絡し指示を仰げるような連携体制をとっている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院機関に看・介護サマリーを提出し、本人の状態を把握した上で利用者が安心して治療が受けられるよう支援している。またこまめに面会に行くことで利用者の状況を医師や看護師と情報交換し、早期に退院できるよう対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、職員全員で今後の方針を話し合い、ご家族や医師との連携を図りながら、関係者全員で方針を共有している。またご家族には事業所でできる事、できない事もあわせて説明をし、理解を得られるよう対応している。	重度化した場合や終末期の事業所の対応指針を作成し、事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明して同意を得ている。 事業所は看取りを行う方針であり、管理者はマニュアルを作成するとともに全職員で方針を話し合い、家族等や協力医療機関の医師と連携を図りながら、関係者全員で方針を共有して支援に取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急処置の方法は看護師に指導を仰いだり、定期的に勉強会を実施して職員全員が対応できるようにしている。また利用者の状態によりその都度必要な急変時の対応方法を看護師に教わるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、避難経路や避難方法などを随時確認している。会議の中でも職員同士で意見を出し合い、情報の共有を図っている。また運営推進会議等を通じて、近隣住民の方や民生委員、自治会長にも協力を仰いでいる。	年2回消防署立会いのもと夜間想定を含めた避難訓練を実施し、避難経路や避難方法などの確認を行っている。 訓練の結果を記録するとともに課題や反省点を話し合い、検討して次回の訓練に活かしている。 緊急連絡網を作成して事務室に掲示するとともに、災害の発生に備えて食糧や飲料水、おむつ、懐中電灯、電池などを備蓄し、リストを作成して管理している。 運営推進会議を通じて避難訓練に近隣住民や民生委員、自治会長の協力を要請しているが、参加を得るまでには至っていない。	避難訓練への近隣住民等の参加については、運営推進会議で協力を要請しているので実現することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの人格を尊重し、利用者の個性を理解した上で適切な言葉掛けができるような対応を意識している。また情報の守秘義務についても十分理解し、利用者の書類は事務所内の所定の場所に保管している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。  個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のあらゆる場面で利用者が理解できるような説明をして意思確認を行いながら支援している。自己決定をしていただけるような声掛けを実施し、利用者本位の希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で都合ではなく、利用者やご家族の希望を取り入れ、一人ひとりにあったケアが提供できるよう努めている。また希望を言いやすいような職員と利用者・ご家族との関係作りに力を入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝洗面や髭剃りなどの整容を行い、清潔の保持を保っている。おしゃれについても、起床時に利用者と一緒に当日着る服を選ぶなどして、おしゃれを楽しめるような支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態・嗜好を考慮しながら、味付けや硬さ、量などを個人によって調節している。食事の準備や片付けについては、無理なく行えるよう、個人の状態に合わせて実施している。季節ごとの特別メニューも利用者の楽しみとなっている。	献立は法人の管理栄養士が作成したものとなっているが、食事の好みや味付け、硬さなど、できるだけ利用者の要望を献立に取り入れるとともに、季節の食材を取り入れて献立に追加している。 正月や雛祭り、クリスマス、敬老会、誕生会などには特別食を提供するとともに、郷土食や職員による握り寿司などのお楽しみ食事会も取り入れ、食事に変化に富んだ楽しみなものとなるよう工夫している。 「フードセラピー」と称して毎月計画を立てながら利用者と職員でうどん作りやクレープ作りなどを実施するとともに、毎年近隣住民の好意でさつまいもを分けて貰い、乾燥いも作りをしている。 職員は利用者と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気の中で食事ができるよう支援するとともに、利用者は能力に応じて食事の準備や下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を常に確認しており、不足している利用者には摂取していただけるような飲み物を提供し、促している。食事も一人ひとりの状態に応じて常食や一口大、刻み食、ミキサー食で対応し、十分に栄養摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきをしていただくよう促している。困難な方には口腔内を消毒液を含ませたガーゼで拭き取るなどして対応している。本人の状態にあった口腔ケアができるよう、見守り・声掛けを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握する為、排泄確認の都度チェック表に記入し、それらを基にトイレ誘導を行っている。排泄間隔が開いてしまう方には声掛けにて促すよう対応している。紙オムツやリハビリパンツを使用している方も定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促すようにしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をしている。 職員は介護技術習得のための勉強会を通してトイレでの排泄を習慣化することの重要性を学び、紙おむつやリハビリパンツを使用している利用者はもとより、尿意や便意を訴えられない利用者にも適切な排泄支援を行っており、失禁が減ったりおむつやパッドなどのコスト削減にもつながっている。 職員は利用者が夜間でも可能な限りトイレで排泄ができるよう誘導するとともに、利用者の状態に合わせて居室でポータブルトイレも使用できるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で把握を行っている。多めの水分摂取を促し、体操にも取り組んでいる。また2・3日排便がない場合は朝冷たい牛乳などを提供し、便秘予防にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望する時間に入浴できるよう、日々利用者に確認しながら入浴支援を行っている。入浴剤を使用することで、リラックスしていただくと共に色や香りを楽しんでいたできるように工夫している。	利用者の希望にそって最低でも一日おきに入浴ができるよう準備するとともに、希望者は併設の通所介護事業所の大浴場を利用したり、仲の良い利用者同士と一緒に入浴ができるよう支援している。 名湯の入浴剤や季節毎に柚子湯や菖蒲湯を取り入れ、季節を感じながらゆったりと寛いだ気分で入浴ができるよう工夫をしている。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら言葉かけの仕方を変えたり、入浴日を利用者と一緒に決めてカレンダーに丸印を付け、自発的に入浴ができるように工夫するなど、無理の無いように促している。 一般浴が困難な利用者には、機械浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に温かい飲み物を提供したり、布団を温めておくなど安眠に繋がられるような対応を実施している。また不眠・不安などを訴えられた際などは、ゆっくりと話を傾聴し安心して休んでいただけるよう声掛け・対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の誤薬については一覧表を作成し、数の確認を2人でチェックしている。薬の目的や副作用は薬剤情報で理解している、また薬の変更は、申し送りのノートへ記入で職員全員が分かるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や得意なことを活かせるような環境作りを行い、他者との交流にも繋がられるような支援している。外出が好きな方が多いので、ドライブや買い物など外出の機会を設け、定期的実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月のレクリエーションは事前に食べたいものや、行きたいところのアンケートを実施している。また希望がある場合はご家族との夕食も設けている。	<p>天気の良い日は利用者の希望や体調を考慮しながら近所に散歩に出かけたり、近隣の公園に出かけられるよう支援している。</p> <p>事前に行きたい場所や食べたい物のアンケートを実施して行き先を決め、四季折々に花見や紅葉狩り、苺狩りに出かけ、季節を味わえるよう支援している。</p> <p>利用者の希望にそって近くの海岸や千波湖などへのドライブのほか、買い物に出かけ、気分転換が図れるよう支援している。</p> <p>外出に合わせて外食を支援しており、利用者の楽しみとなっている。</p> <p>利用者は家族等と外食に出かけている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが、利用者が購入を希望する物品はできるだけ本人を連れて買物に出掛け、自分で選びお金を使えるよう支援している。	/	
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた際は本人に繋ぎ、ゆっくりと会話を楽しめるような環境作りをしている。かける際には職員が繋ぎ役を行い、間違った所に電話をかけることが無いよう対応している。郵便物は本人にお渡しし、希望があれば手紙を読んだり、代筆の手伝いを行っている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい環境づくりのために、フロアには季節ごとの展示物や、レクの際に作成した作品を飾るようにして、目でも楽しんでいただけるよう工夫している。居室の扉の形が全て同じで、自室が分からなくなってしまう場合があるため、混乱してしまう方の扉近くに折鶴など目印になるものを飾ることで、混乱を回避している。	<p>共用空間は十分な採光を取り入れるとともに、加湿器を備えたり、温度調節をして居心地よく過ごせるよう配慮している。</p> <p>玄関や居間、廊下には利用者が制作した作品や行事の写真、季節の花を飾り、四季を感じながら和やかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>雛人形や鯉のぼり、母の日のバラなど、季節をテーマにした作品を職員と利用者で作って飾っている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士はテーブル席を同じ場所にし、交流が楽しめるような配置にしている。独りになりたい場合は日当たりの良い窓辺などに誘導し、ゆっくりと過ごしていただけるよう対応をしている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ではゆっくり休めるよう、使い慣れた布団類などを持ち込んでいたり、壁や棚などにも本人の好みの写真や作品を飾っていただくなど、個人にあった居心地の良い居室作りを行っている。	利用者は居室にテレビやラジオ、寝具類などの使い慣れた物品を持ち込んでいるほか、仏壇や神棚、家族の写真、レクリエーションで制作した手作り作品、観葉植物、時計、カレンダー、筆記用具などを置き、生活感を取り入れながら居心地よい部屋づくりをしている。 職員は一部の利用者の混乱を避けるため、入口の扉近くに折り鶴を飾って目印にし、自室が分かるように工夫をしている。 利用者は懐かしい置物や趣味の物、詩吟の免状などを飾り、過去の思い出を大切にしながら過ごしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の至るところに手すりが設置されており、安全に移動ができるような作りとなっている。トイレや浴室の側には看板が設置しており、一目で何の扉か分かるようになっている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 勝田ケアセンターそよ風

作成日 平成25年7月6日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練実施の際に、近隣住民の参加を要請はしているが、参加を得るまでには至っていない。	避難訓練への近隣住民の参加	運営推進会議や自治会の回覧板を活用して近隣住民へ避難訓練実施の案内通知。また、地域消防分署との連携をとりながらの実施。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。